

# 「ことば、いのち、光であるキリスト」

## ヨハネ1：1－14

堀田修一 22・12・25

### I 「ことば」であるキリスト

「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった」：1。「初めに」：全創造の初め。「はじめに神が天と地を創造された」創世記1：1。「ことば（神であるイエス・キリスト。黙示録19：13に主イエス様のことが「その名は『神のことば』と呼ばれていた」とある。聖書は聖書全体から正しく解釈できる）は人となって（クリスマス）、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光（神の素晴らしい御性質）を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」：14。このみことばで、「ことば」が人格的な存在であることが示されている。和訳聖書の発祥の地は、愛知県の知多半島の小野浦である。3人の漁師が宣教師ギュツラフと出会い、聖書和訳の協力をし、はじめての日本語訳聖書であるヨハネの福音書とヨハネ書簡が完成した。その後の彼らの生涯とともに、映画にもなった三浦綾子さんの小説「海嶺」（後に映画化。主演は西郷輝彦）に詳しく述べられている。この時のヨハネ1：1の訳は「ハジマリニ カシコイモノゴザル コノカシコイモノ ゴクラクトモニゴザル」だった。「ことば」を「カシコイモノ」と訳した。そこにはこの「ことば」が人格的な知恵のあるお方であることが良く現れている。実は箴言に「知恵であるわたし（御子なる神）は賢さを住まいとする。…主（父なる神）は、ご自分の働きのはじめに、そのみわざの最初にわたし（神の御子キリスト）を得ておられた。…主（父なる神）が天を堅く立てられたとき、わたし（御子なる神）はそこにいた。…地の基を定められたとき、わたし（御子なる神、キリスト）は神（御父）の傍らで、これを組み立てる者であった。わたし（御子）は毎日喜び、いつも御前で楽しんでいた（三位一体の神の愛の交わり）」（8：12, 27, 29, 30）とある。ヨハネが「ことばは神であった」と明言するように、この「ことば」なるお方こそが、クリスマスに人としてこの地上にお生まれになった神の御子キリストである。神が天と地を創造されたとき、神のハンドパワーではなく、一つ一つを丁寧に神の「ことば」で創造されたことには深い意味がある。「神は仰せられた（ことばで語られた）。『光よあれ。』すると光があった」創世記1：3。父なる神と「ことば（知恵のあるお方）」である御子キリストと聖霊なる神の三位一体の神が天地万物を創造し、二千年前に、クリスマスに世に降りて来られ、十字架で私たちの罪のために死なれ、死に勝利し復活されたキリストを救い主、主と信じる世界中の人々をこの二千年間救い続けておられます。本日の「ことば（キリスト、旧約聖書で約束された救い主が与えられるという「ことば」）は人となって、私たちの間に住まれた」：（14）の「ことば」とは、神の私たちへの愛の語りかけです。「わたしはあなたを愛しています。あなたが主イエスを救い主、主と信じ心に迎え入れるなら罪と滅びから救われます」という神のことばが、人となり救い主としてクリスマスに生まれて下さった。神の愛と救いのことばが、今日、あなたに語りかけています。人は語りかけられることにより、自分の存在が認められている事確かめ、語りかけられることで愛とことばを獲得し、自分も神や人に語りかける存在となるのです。新しい命が宿ったときから、親は一生懸命に語りかける。「あなたがどれほど愛されているか、どれほど待ち望まれているか、どれほど高価で尊い存在か、どれほど喜

ばれていることか」と。愛と真実なことばが人を育て、愛と真実なことばが人を生かす。私たち人間にとり最も大切なことは、私たちに語りかけられる神がおられると知ること、その語りかけとは「あなたを愛する、あなたを救います」ということばであり、そのことばが人となってクリスマスに私たちのもとに来て下さったのがイエスキリスト。こうして語りかけてやまない神は、私たちがその語りかけ「わたしはあなたを愛し、主を信じる人を救います」ということばに全身全霊をもって応答するのを待っておられます。

Ⅱ 「いのち」。「この方（神であるキリスト）にはいのちがあった」：4。「ことば」なるキリストの内に「いのち」がある。キリストによる神の語りかけを信じる者に、永遠の「いのち」が与えられる。真実なことばをもって語りかけるとは、自分自身を相手に差し出すような重みを持っている。真実でないことばは、相手の心に響かない。真実な語りかけ、ことばには、語る人の存在がかけり、いのちがこもっている。人間のことばと違い、神のことばは空しいものではない。「わたしの口からわたしのことばも、わたしのところに空しく帰ってくることはない。それは、わたしの望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる」イザヤ55：11。主イエス・キリストは言われる。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません」ヨハネ6：35。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも（天国で）生きるのです」11：25。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」14：6。主のことばには、愛と真実といのちがこもっています。このいのちのことばで主に語りかけられるとき、私たちの心にいのちの火が灯される。主の新しいいのちが心に生まれる。ヨハネ20：31でこう語られている。「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである」。私たちにまことのいのちを与えるために主イエスは、クリスマスにこの世に来られました。33歳の時に、私たちを愛し、私たちの罪を負い、十字架で私たちの身代わりに罪の刑罰を受け、償い、赦しを完成し、三日目に復活し、私たちの救いを完成されました。それ故に、自分の罪を認め、主イエス様を信じると、罪の赦しと真のいのち、復活のいのち、永遠のいのち（主を信じたときから与えられ、永遠に神と交わることができるいのち）を与えて下さいます！感謝します。

Ⅲ 「光」。生ける「ことば」であり、「いのち」であるキリストは「光」であるお方です。「この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった」：4, 5。「すべての人を照らすまことの光が、世に来ようとしていた」：9。1節の「初めにことばがあった」とは、創世記1：1の「はじめに神が天と地を創造された」とつながっている。天地創造で、最初に神が仰せられた「ことば」は「光よあれ」1：3。神の「ことば」は、茫漠とした闇に光を創造された。ヨハネの福音書は、この創世記の光に照らされながら、イエス・キリストこそが、闇（悪魔、罪、悪、死、永遠の滅びの支配、絶望しそうな闇）を照らすまことの光（まことの救い、まことの道に導く光、どんなにつらいときも希望を与える光）であることを私たちに示している。闇は、確実に世界を覆い、世界中の人々、私たちから希望を奪い、この世を絶望の闇に陥らせる圧倒的な力。それは外側の世界ばかりではなく、私たちの心の深いところに広がる罪（救いの神から離れている自己中心の罪）の闇でもある。闇、悲惨、争い、戦争、赦し合わず憎しみの世界。しかし、神のことばである聖書は、

この闇の現実を明確に語りつつ、それに対する決定的な勝利の宣言を語る→「光（クリスマスに生まれ、十字架で全人類の身代わりに罪の刑罰を受け、罪の完全な償いをなさり死なれ、三日目に復活され死に勝利された救い主キリスト）は闇の中に輝いている。闇（悪魔、罪、悪、死、滅び、絶望）はこれに打ち勝たなかった」：5。この宣言は事実である。この二千年間、世界中の人々にクリスマスと十字架と復活の救い主が伝えられ、世界中に主を信じるクリスチャンが主のいのち、救いの光を受け、世の光として、祈りつつ、人々を愛し、主の救いを伝えている。証し。現在、クリスチャンは、約24億人、世界総人口の約32%。主イエスは励まされる。「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」ヨハネ16：33。

祈り：主が救いのことば、真のいのち、救いの希望の光であることを感謝します！